

四万十川の自然

四万十川の天然水は、藻類やプランクトンから魚そして鳥まで、多様な生態系を支えています。この川は、その源流がある不入山（1336メートル）から太平洋まで196キロメートルあり、高知県西部の深い森林に覆われた山々と豊かな氾濫原の中を曲がりくねって流れています。川にダムや堤防は少なく、その流域の大部分は手つかずのままです。川沿いの小さな村々は、毎年の洪水に耐えられるよう設計された、シンプルな沈下橋でつながれています。これらの地域の人々は、その生活を支える川と共存する術を身に付けているのです。

水生生物の保護

川の中流から下流には、アユ、アマゴ、ウナギ、ハゼ、手長エビ、モクズガニが、数多く生息しています。この地域では、乱獲を防ぐために、漁期を制限するなど、持続可能な漁業が実践されています。

川は、中村の町付近で太平洋に達します。ここでは、四万十川河口の汽水域に200種を超える魚が数多く生息しており、バラマンディに似た珍しい魚アカメもその1つです。アオサリ（緑色のリ）は塩水の中で育ち、冬の間に手作業で収穫され、川辺の枠にかけて乾燥させます。歯応えが柔らかく、ミネラルが豊富なことから人気があり、天ぷらとして揚げて食べることが多いです。

野生生物保護区と公園

複数の保護区が、四万十川周辺に生息する昆虫と鳥を守っています。中村のトンボ自然公園には、水質、湿度、温度等の環境条件に惹きつけられた、60種を超えるトンボが生息しています。トンボは、幼虫の餌となる小さな水生昆虫が健康に暮らせる、きれいな水のある環境にしか卵を産みません。

河口近くの四万十川野鳥自然公園は、オオヨシキリやホオジロなど草原の鳥の生息地です。この公園を訪れると、公園内の観察小屋から鳥たちを間近に見ることができます。四万十川中流付近の山深く、下道の集落近くにあるNGO ヤイロチョウ・トラストは、繁殖のために5月に東南アジアからやってくる色鮮やかな渡り鳥ヤイロチョウを保護しています。四万十川周辺は、これらの鳥を今でも見ることができる、日本国内では数少ない場所の1つです。

森と花々

四万十川の穏やかで湿度の高い環境は、多様な植物にとって理想的です。流域の植物分布は、地形によって異なります。川の中流と上流には、シャクナゲ、ススキ、オーク、ブナノキ、クリの木が群生しています。これらの植物は、浸食を防ぐために川岸にも植えられています。

川の下流、中村の町の近隣には、入田ヤナギ林が約2キロメートルにわたって広がっています。2月下旬から3月にかけて、この林の地面は鮮やかな黄色の菜種の花で覆われます。春の後半になると、香山寺

市民の森と香山寺境内のあちこちで、23 種もの藤の花が咲きます。藤の花は中村の代表的な装飾柄であり、15 世紀に町の発展に貢献した一条家の家紋になりました。5 月始めには、この花を祝う春の藤祭りが行われます。5 月下旬からは、町の中心部近くにある安並水車をあじさいが彩ります。